

## 国際金融公社（IFC）が発行するソーシャルボンドへの投資について

### ～新型コロナウイルス感染症対策支援への貢献～

沼津信用金庫（理事長：紅野 正裕）は、この度、国際金融公社（以下「IFC」）が発行するソーシャルボンド（社会貢献債）に投資いたしました。

世界銀行グループの一員である IFC は、途上国の民間セクター開発に特化した世界最大規模の国際開発金融機関です。IFC のソーシャルボンドによって調達された資金は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響を受けた国を含む開発途上国において、必要なサービスを受けられない人々を受益者とするプロジェクトに充てられます。

今般、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大の対応策の一環として、IFC は当該感染症拡大により景気低迷の影響を受ける途上国の民間企業とその従業員を支えるため、80 億ドルの融資枠を設定しました。IFC はサプライチェーンの断絶に苦しむ民間企業、パンデミックの影響を直接受けている観光業、製造業などの経済セクターを資金面で支援します。

2019 年 11 月、当金庫を含む静岡県東部 4 信用金庫（三島・富士宮・富士・沼津）は「共同 SDGs 宣言」を公表し、「環境」「社会」「経済」の分野において連携して活動を行い、地域社会の経済活動や住民の皆様の生活と健康の持続的発展に協調し、共通理念を持ち協働して地域に発信していく事で地域金融機関としての役割を明確化いたしました。今後も SDGs の理念のもと、信用金庫のもつ役割と機能を発揮し、地域社会の好循環を創出してまいります。

当金庫は、環境や地域・社会と共生し、地域の皆様と安定的な成長を共有していく観点から、環境問題の解決をはじめとした数々の社会貢献に資する ESG 投資を重要な投資活動と考えており、当債券への投資もその一つと位置付けています。

今後も、社会公共性・投資採算性を踏まえ、ESG 投融資を推進することで、お客様・地域社会の皆様のご生活環境・安全性の確保・持続可能な社会の形成に地域金融機関として寄与してまいります。

